

令和4年度 学校経営計画

練馬区立大泉第二中学校
校長 関 基 雄

1 本校の教育目標

練馬区教育委員会の教育目標、新学習指導要領に基づき、教職員の日々の創意と努力、保護者や地域の支えにより、長年にわたり営々として築かれてきた学校の特色や伝統を生かして、以下の教育目標の達成を目指すものである。

1. よく考える人になろう
2. 進んで行動する人になろう
3. 責任感の強い人になろう
4. 豊かな心をもった人になろう

2 学校経営ビジョン

「文武両道 大二中だからできる、大二中しかできない魅力のある学び」

- (1) 目指す生徒像「自らの進路を切り拓き、社会に役立つ人になる」
- (2) 目指す学校像「生徒が夢・希望を叶えられる学校」
- (3) 目指す教師像「生徒の力を伸ばせる教師・教師が変われば生徒が変わる」

3 経営の基本方針

(1) よく考える人になるために

ア 全生徒に配布されたタブレット端末やICT機器の更なる活用を図り生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識および技能を定着させ学力の向上を図るとともに、学習支援ソフトを活用した家庭学習の推進を図る。

イ 学習指導要領に則り、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業方法の研修を深めるとともに信頼される評価の基準の定着を図る。

ウ 大泉南小学校・大泉第二小学校と連携した小中一貫教育の意義を再認識し、9年間を見通した学習指導・生活指導、結びつきの更なる充実を図る。

(2) 進んで行動する人になるために

エ 道徳教育で身に付けた道徳性を生かし、自ら進んで活動できるように奉仕的な活動の機会の充実を図り、認め合い活動を推進し、自己有用感や自尊感情を高めていく。

オ 新型コロナウイルス感染防止のために、一人一人が健康や体力に関心をもち、感染対策を行い、すすんで体力の向上や健康維持に取り組む態度等を育てる。

(2) 責任感の強い人になるために

カ 学校行事や特別活動の意義を踏まえ、コロナ禍ではあるができるかぎり生徒の個性や能力を発揮させる場を維持する。その上で、相互に支え合い高め合う集団を意識させ、所属感や責任感を育てる。

キ 将来の夢、希望をもち何事にも意欲的に取り組んでいけるように様々な体験活動やキャリアパスポートを活用してキャリア教育の充実、体系化を図る。

(3) 豊かな心をもった人になるために

ク 学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神を育成するとともに、豊かな心の育成を図る。

特に、差別や偏見から生じるいじめなどに対して道徳教育を充実させるなどの対応を講じ、更に対策に力を入れる。

ケ 特に不登校対策を充実するために、不登校対策委員会を中心として組織的な取り組みを行う。また、生徒の気持ち不安定となりがちな夏季休業明けに全校生徒を対象とした「誰でもおしゃべりウィーク」を行い、心の安定と教師との信頼関係を深めていく。

コ 巡回指導教員や特別支援教室専門員、関係機関との連携を強め、校内特別支援委員会と不登校対策委員会を連動させて特別支援教育の更なる充実を図る。

(4) 教育目標を達成するためのその他の方針

サ オンラインによる保護者会などの工夫を図り、地域・保護者との信頼と協力関係を築くとともに防災教育をはじめとして地域の力を活用した教育活動に努める。また、ホームページなどで情報の発信を行い、学校評価・学校関係者評価を十分に活用して実態把握と課題の改善に努め、保護者の協力体制を作り開かれた学校づくりを推進する。

4 経営の重点

「本校の強みを生かし、生徒の利益を第一に考えた教育に取り組む。」

本校の強みは1、学力を伸ばす落ち着いた学習環境 2、生徒主体の行事の推進 3、多くの部活による意欲的活動そして何よりも4、教員間のチームワークである。生徒のためになることであれば学校体制で取り組むことができる。こうした力を発揮して以下の課題に取り組む。

魅力ある学校とするために（学校評価を踏まえて）

○学習面の魅力づくり

- ・学力向上→ねらいの明確化、自主的・自発的な学習の展開、タブレット端末の活用推進
- ・個に応じた学習指導
- ・丁寧な進路指導（学校体制での面接指導）
- ・英語学習の充実
→放課後学習・地域未来塾のさらなる活用
- ・学びのススメとeライブラリーを活用した家庭学習の定着と評価方法の周知

○学校生活での魅力づくり

- ・生徒が魅力を感じ、大二中でよかったと思える学校生活、行事、部活動の取り組み
→集団への所属感、自己有用感、自尊感情などが育つ取り組みを
- ・わくわくするような、やってみたいと思うような取り組み
- ・生徒が自分の得意を見つけられるような取り組み→良いところ探し、キャリアパスポート
- ・生徒が安心して送れる学校生活の保障→いじめ防止キャンペーンなど対応の重点化
- ・「誰でもおしゃべりウィーク」をはじめとする相談活動の推進
- ・ボランティア活動など家庭と協力した取り組みの促進

○大二中の魅力の発信→伝え方の工夫

- ・保護者会、説明会の充実→オンラインの活用
- ・ホームページのさらなる充実
- ・PTAとの連携強化
- ・小学生と保護者に魅力を伝える

5 実践に向けて重点目標と方策

項目	中期的目標	目標に向けた今年度の方策
I 特色ある教育活動 学校運営	① 本校の伝統である「あいさつ」促進と「歌声」を次につなげる。 ② 学校行事や部活動を通して、個性を伸ばし、成就感、達成感をもたせ、集団への所属感や責任感を育てる。 ③ 特別支援委員会と不登校対策委員会との連携を行い、不登校生徒への対応と特別支援教育の充実を図る。 ④ 教育相談の充実 ⑤ 地域人材を活用し、より充実した英語教育を推進する。 ⑥ 大泉南小学校、大泉第二小学校との連携教育のさらなる充実を図る。 ⑦ 組織的な学校運営と決裁の迅速化を図り、働き方改革に取り組む。 ⑧ 組織的に職務を遂行するために、OJTを効果的に実践する ⑨ 「不審者対応の手引き」および「地震対策の手引き」を活用し、学校の具体的な対応について生徒、保護者、地域に伝え、安全教育をより一層推進する。また、感染症対策にも留意し、安全・安心な学校運営を行う。 ⑩ 保護者・地域への情報発信の充実を図る。	・挨拶運動など取り組みの充実を図る。 ・歌の伝統をつなげていく第一歩の取組を行う。 ・各取り組みにおいて生徒が主体となった活動を取り入れる。 ○取り組みの後に振り返りやシェアリングを必ず行う。 ○不登校対策と配慮を要する生徒の対応について全職員での組織的取り組みを確立していく。 ・マイステップアップルーム等の活用を図る。 ・不登校対策担当を当てチャレンジルームの一層の活用を図る。 ○「おしゃべりウィーク」を行い、教育相談の取組を浸透させる。 ○地域の力を活用して放課後の地域未来塾の充実を図る。 ○1年生のイングリッシュキャンプ、2年生のグローバルゲイトウェイ、英検I B Aを体系的に組み入れ英語学習への意欲を高める。 ・クリエーターを中心にさらに充実した連携教育を行い、その活動を積極的に保護者等に伝える取り組みを行う。 ・新学習指導要領を踏まえた課題改善カリキュラムの改訂に取り組む。 ・教員の交流授業をより効果的な取り組みとする。 ○出身小学校への手紙を出したり、リトルティーチャなどの取り組みを行い連携を一層深めていく。 ・学校徴収金管理システムや出退勤システム、副校長補佐、スクールサポートスタッフなどを活用し業務の見直しを行っていく。 ・主幹・主任教諭、経営補佐を中心に、若手教員の育成に積極的にあたる。 ○引き取り訓練などより実践的な避難訓練のあり方を考え、大きな災害が起きた際の対応を確立していく。 ・校内で集団発生が起きないように今年度も「練馬区立学校 感染予防のガイドライン」に基づき感染症対策に取り組む。 ・ホームページについては組織的な対応を図り、「お知らせ」の項目の充実を図る。 ○PTAとの連携をより強化したり、オンラインを活用したお知らせ方法を検討していく。

<p>II 学習指導</p>	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」の実践を図る。</p> <p>② 各教科で授業のねらいを明確にし、「わかる授業」「わからせる授業」を工夫し、基礎的・基本的な知識と技能の習得を図る。</p> <p>③ 生徒の関心や意欲を引き出す授業の工夫を図る。</p> <p>④ 家庭学習の充実を図る。</p> <p>⑤ タブレット、eライブラリの積極的な活用を図る</p> <p>⑥ 生徒が授業を受けたいと思う特別な教科「道徳」を推進し、人権教育に取り組む。</p> <p>⑦ カリキュラムマネジメントの核となるように各教科の成果を生かす総合的な学習の時間の学びを推進する。</p> <p>⑧ 読解力・表現力を高める工夫を図る</p>	<p>・年間で2回以上の「深い学び」を目指した取り組みを行う。</p> <p>○毎時間ごとに授業のねらいを明確に示し、授業のまとめでねらいが達成できているか確認する。 ・各教科、学年で家庭学習の取り組みを行う。 ・地域人材を活用して放課後の補充教室等に取り組みむ。</p> <p>○各教室に配備されたICT機器やタブレット端末を積極的に活用し、推進を図る。</p> <p>○各学年ごとに「学びのススメ」を作成し、家庭学習の方法を示し、家庭学習への取り組みを充実させる。</p> <p>○授業、家庭学習などでタブレット端末やeライブラリを意識的に取り入れる</p> <p>・研修の成果を生かした道徳の授業に取り組む。 ・35回の生徒の授業感想をポートフォリオとして評価に活用する。 ○学年ごとに自己肯定感を高めることを重点にした内容項目を選択する。</p> <p>・総合の時間の活動の際に、教科の学習の成果を踏まえるような工夫を行う。</p> <p>・各単元に読解・表現する活動を取り入れる。</p>
<p>III 生活指導</p> <p>進路指導</p>	<p>① 生徒と向き合い、寄り添う生活指導の充実を図る。</p> <p>② 各学年の生徒の実態に応じ、生徒の規範意識と社会性を高める指導を行う。</p> <p>③ 教育相談を充実させ、「いじめ」の早期発見・早期対応を図り、家庭との連携を強化し、信頼関係を構築するとともに、関係諸機関と連携を図る。</p> <p>④ 生徒に自己理解を深めさせ、将来の目標をもたせ、望ましい職業観をはぐくむキャリア教育を推進する。</p> <p>⑤ 生徒に卒業後の進路を主体的に選択させ、将来の生活において自己実現を図ろうとする態度を育てる</p>	<p>・学年体制で生活指導に取り組み、個別の場面だけで生徒をとらえずに、寄り添いながら成長を促す働きかけを継続的に行っていく。</p> <p>・教師が率先垂範しながら基本的生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>・定期的にいじめ状況調査を行い、生活指導主任を中心として学校体制で対応に取り組む。 ・校内での取り組みを「たより」や講話等で伝え、一層の啓発活動に力を入れる。 ○いじめ防止キャンペーンなど啓発活動を行う。</p> <p>・キャリアパスポートを活用した3年間を見通した進路指導体制を確立させ、組織的・計画的な実施を図る。</p> <p>・生徒一人一人と丁寧に面談や面接練習を行い、自己の進路の実現を目指せるように援助をしていく。</p>
<p>IV 特別活動</p>	<p>① 全ての生徒がどこかで自分の良いところが発揮できる活動を設け、所属感や責任感を高める。</p> <p>② 節電やリサイクルなど環境に配慮した学校生活になるよう取り組む。</p>	<p>・学校行事、部活動、委員会活動、掛活動など様々な活動の場面を設ける。 ○生徒の活躍が見られる場面をとらえて何らかの方法で認め励ます取り組みを行う。</p> <p>・特に紙の節約に力を入れる。</p>

	③ ボランティア活動の充実を図り、地域社会での所属感を高める。	・ボランティア登録名簿を作成し、参加の窓口を広げる。
V 研究・研修	① 新学習指導要領に基づいた授業力の向上を図る。 ② 保護者から信頼を得られる評価・評定を行えるようにする。 ③ 特別な配慮を要する生徒への支援方法を身に付ける。	○指導方法や評価について研修を深め、校内研修を行い職員の授業力向上に努める。 ・中学校教育研究会などを活用して研修に努める。 ・校内特別支援委員会を中心に様々な情報を発信して理解を広めていく。

6 私たちの姿勢

地域・保護者から信頼されるための教職員の責務

- 1 服務規律の厳守〈身分上・職務上ともに問題となる行動がないように〉
- 2 校内体制の確認〈どんなちいさいことでも報告・連絡・相談を〉
- 3 学校事故に対する危機感の徹底〈ほとんどの事故は学校（教員）の不注意による〉
- 4 保護者・地域への対応〈生徒の後ろには保護者が、保護者の周囲には地域の人がいる〉
- 5 情報公開への対応〈学校で行っている全ての内容（指導）は客観的な説明が必要不可欠〉
- 6 生徒の変容を第一に考える。〈人を育てることの重要性を自覚する〉
- 7 自己の健康管理〈ワーク・ライフ・バランスを考える〉